



全国各地から集まった約180台のエゴカー。エスティマが浜名湖に集結

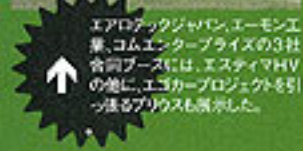


カスタムベース車として人気のエスティマが一気に集合

さすがに賛同メーカーの全てが一気に集まることは難しいが、大阪モーターショー2010をはじめ、各地で行われるイベントにも同時に出展していることが多い。写真はゴールデンウィークの最終日、5月9日に静岡県浜松市にある「渚園(キャンプ場などの複合施設)」で行われた「M&E All Japan Carnival 2010」の様子。現行50系エスティマが約180台も集まる大規模なオフ会となった。もっとエゴカープロジェクトからは、ハセプロ、エアロテックジャパン、エーモン工業、コムエンタープライズの4社が出展した。



リアルカーボンを使ったシートやレザーの風合いを持ったカーボンレザーなど、同じカーボン柄でも様々な素材を用意する。



エアロテックジャパン、エーモン工業、コムエンタープライズの3社合同ブースには、エスティマHVの他に、エゴカープロジェクトを引っ張るアリスも展示した。

エゴ

カー

に

乗ろう



- ① 有限会社コムエンタープライズ 岡本 亮氏
- ② 株式会社エアロテック ジャパン 吉川 寛志氏
- ③ 株式会社ハセ・プロ 長谷川 勝秀氏
- ④ エーモン工業株式会社 藤本 壮徳氏

プロジェクトを引っ張る。中央のハセ・プロの長谷川氏は、特殊なカーボン柄シートで内外装のアイテムをカーボン調に変えてしまう。そして、最後尾を歩くのがエーモン工業の藤本氏だ。様々な製品の中から、静音計画とサイドビュールEEDテールを紹介する。スケジューリングが合わずに撮影できなかったが、今回は7社のプロジェクト参加メーカーの最新アイテムを紹介したい。

複数のメーカーが共同で仕上げた質沢なエゴカー。例や楽しそうなオジサンたちが掲げているのは、白社の最新アイテムのパネルだ。そう、ここからのページは、この別冊付録の表題に即して「もっとエゴカープロジェクト」に突入していく。

このプロジェクトは、大阪を中心とした有カアフターパーツメーカーが、エゴカーでももっと自分らしい「エゴ」クルマに乗ろうよ! という意志のもとに集まった結果、それぞれのメーカーが得意とするアイテムを開発してきたという経緯がある。大阪モーターショーや各地で行われるイベントなどにも、合同のブースを出展するなど、様々な場所に出展しているのを見覚えのある読者も多いのではないだろうか。

ということでも、もっとエゴカープロジェクトを引っ張る各メーカーの紹介をしたいと思います。上の写真に写っているのは、右からコムエンタープライズ(CEP)の岡本氏、セキユリティヤキレス操作で様々な操作が行える電子アイテムを開発するメーカーだ。二人目のエアロテックジャパン(RANDO)の吉川氏は、エアロパーツを中心に

複数のメーカーが共同で仕上げた質沢なエゴカー。例や楽しそうなオジサンたちが掲げているのは、白社の最新アイテムのパネルだ。そう、ここからのページは、この別冊付録の表題に即して「もっとエゴカープロジェクト」に突入していく。

このプロジェクトは、大阪を中心とした有カアフターパーツメーカーが、エゴカーでももっと自分らしい「エゴ」クルマに乗ろうよ! という意志のもとに集まった結果、それぞれのメーカーが得意とするアイテムを開発してきたという経緯がある。大阪モーターショーや各地で行われるイベントなどにも、合同のブースを出展するなど、様々な場所に出展しているのを見覚えのある読者も多いのではないだろうか。

ということでも、もっとエゴカープロジェクトを引っ張る各メーカーの紹介をしたいと思います。上の写真に写っているのは、右からコムエンタープライズ(CEP)の岡本氏、セキユリティヤキレス操作で様々な操作が行える電子アイテムを開発するメーカーだ。二人目のエアロテックジャパン(RANDO)の吉川氏は、エアロパーツを中心に